キバシリ(2)

　2008年3月19日朝、マンションのごみ出しに向かっていました。すれちがった顔見知りの住人と挨拶を交わして数歩進んだところで、後ろで変な声がしました。驚いた感じの声だったのです。振り向くと「まだ生きてる!!」とその人が私に聞えて欲しい程度の声の大きさでつぶやいたのです。その人の足元のコンクリートの上に小さな白っぽい物が落ちていました。とっさに小鳥だと思い近づきますと、なんとキバシリが意識朦朧の様子で目をしばたいておりました。病気か?　とも思いましたが、ガラスに衝突して脳震盪状態と判断しました。
　拾い上げると左手だけで十分に包み込めました。急いでゴミを処分して、自宅に戻り、手の中で目の勢いが少し回復の気配を感じるので、2㍑のペットボトルを切って、その中に入れ、折りよく澄川活動日なので澄川の森で放鳥することにしました。
　早めに自宅を出発したのですが、澄川には先着車が2台あり、間もなく続々と参加者が集まりはじめました。数人に証人になってもらったので、森に返しました。
　雪解けで地面が現われ始めるこの時期、しばしば鳥達が移動のために市街地を通過する際にガラスに衝突する事故が発生します。前年に生まれたまだ

世馴れしていない若鳥はガラスに映る景色の判断ができていなくて激突するものと思われます。シメの場合もその例ですが、設立時点の事務所の所在場所明治安田生命ビルでもシジュウガラの死骸を拾ったことがあります。
　キバシリの嘴は細長くて下に向かって湾曲しております。このお陰でガラスに衝突した際に衝撃をそらせたことで即死にならずにすんだものと思われました。
　キバシリの巣はお椀型で、私の愛用している図鑑の説明では「針葉樹の樹皮が大きく剥がれたような部分の裏側に巣をつくる」と記載されていますが、そんな状態の樹皮を私はかって見たこともないので、巣づくりの場所が確認された例が少ないものと思われます。記載の通りだとすると巣箱に入ってくれそうな気もしますが、気まぐれに使ってくれる変わり者の出現を期待しましょう。
　自宅のマンションは豊平川に近いので、この時期北上する鳥達の通過道になっていることはわかりますが、森の中でも滅多にお目にかかれないキバシリを生きている状態で直接手で触れる好運を喜びました。

　2008年3月31日。澄川の巣箱掃除・修理・架け替えのやり残し分を片付けるため独りで森に入りました。沢地に集材した材の上の雪はすっかりと消えていましたが、何やら動くものがおります。ネズミ?　と思って見ていましたら残雪をバックにしてシルエットがくっきりと見えました。紛れもないミソサザイの形でした。急いでバックからカメラを取り出して撮影しようと

したのですが、間に合いませんでした。ですから証拠はありません。この森での初めての出会いなので、記録の意味で報告しておきます。時間は8時ごろでした。

　この日で5回ほどもかかりました巣箱約150個のメンテナンスを完了しました。独りでの作業だったし、最初の日が雪の降る中だったこともあり、記録する余裕がないままに終えました。利用率は前年より劣ると思います。ハチ類に利用されたものが2個のみで、その2つとも途中で放棄されたような状態でした。一昨年に比べてスズメバチに出会うことがほとんどなかったことを何人かの意見で確認していましたことが裏付けられました。